## 第２　教育研究団体の意見・評価

### ①　日本地理教育学会

（代表者　矢ヶ崎　典　隆　　会員数　約560人）
ＴＥＬ　042-329-7729

## 地　　理　　Ａ

### １　前　　文

今年度の「地理Ａ」の出題は、昨年同様５題の大問で構成された。問題数は33問と昨年より２問減少したため、４点配点の問題が１問見られた。ここ数年は２点または３点配点であったため、４点配点の問題が適切であるかどうかは検討を要するところである。ただ、難易度は標準的であり、全体的に見ればおおむね妥当であったといえる。また、個々には改善の必要な問題はあるものの主題図・グラフ・統計資料・景観写真を用いて多面的に地理的思考力を測ろうという設問形式は評価できるものである。日頃の地理学習の成果が試されるこのような形式の問題を今後も継続して作成していただきたい。一方、疑問が生じる問題もあった。こうした問題が１問でもあると大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）全体の評価を揺るがすことにもなる。出題には細心の注意を払ってほしい。

### ２　試験問題の程度・設問数・配点・形式等

第１問　地理の基礎的事項である地球上の位置（対蹠点）、図法（地図投影法）、地形断面、大陸別の地形の特色、気候区、大地形、景観、領域に関して扱った出題である。全体の出題テーマについてはバランスが取れたものであり、また問題の難易や、選択肢の解答方法についても、適切であると言えよう。しかし、それぞれの設問についてはやや淡泊なものとなってしまっていることが気になる。これらの出題テーマは作業学習としても最適なので、地図やグラフの作業学習の成果を問うような出題形式の設問が望まれる。

問１　球面上の位置をいかにして捉えているかについての出題として、内容、形式、選択肢（ア～エの四つの位置）とも適切である。良問である。

問２　下線部ｂの正誤判断及び、文章全体について誤りが存在している。ホモロサイン図法は必ずしも海洋部分を断裂させたものというわけではなく、断裂の数と位置は目的に応じていろいろである。例えばこの図とは逆に大陸部分を断裂させて、海洋部分がつながるようにしたものも含まれる。よって、「海洋を断裂して陸地の形のひずみを小さくしている。」という表現は誤りである。一般化して記述するのであれば、「一部を断裂させ形の歪みを少なくしている。」とすべきである。また、断裂している部分にも連続しているような地理的事象（気温、降水量など）の表現は不適当なので、下線部ｂの「地理的事象の分布を描くのに適している。」は「誤」と考えられる。かつての地図帳等には、断裂図法中に等値線が海洋部分も途切れながらも示されていたものもあるが、これには違和感がある。管見する限り、現

在では気温分布のように陸地と海洋にまたがる地理的事象の分布には使われていない。歪みがすくなく、断裂していない正積図法（エケルト第４図法など）で表現している場合が多い。そもそも各種図法は地理的事象の分布を示すために作られたものとも言える。示すべき地理的事象によってどのような図法がよいのかを選択するのである。どのような地理的事象の分布を描くのか具体的に指摘しないと問題として成立しないとも考えられる。

問３　世界的なスケールでの地形断面を捉えるには適切な部分である。簡潔な問いかけではあるが良問である。

問４　グラフの判別を問う良問である。作業学習の成果を問う設問となっており、作業学習の意義づけという点でも評価できる。

問５　気候の特徴を問う設問であり四つの地点の選定は適切であるが、グラフ等を絡めた出題形式を望みたい。

問６　大地形についての用語として基礎的なものを問う設問である。取り上げた用語については適切ではあるが、用語の正誤だけに終わらせてほしくはなかった。それぞれを写真と組み合わせるなどの工夫が望まれる。

問７　それぞれの写真はそれぞれの事象を明瞭に表現しており、良問になっている。景観写真をいかにして捉えるかの良い学習目標となる問題となっている。

問８　境界や領域についての用語や概念を問う出題であるが、数行の文章スペースに無理やりこれらの概念を詰め込んだということが感じられてしまう。図などを交えての出題形式にしても良かったのではないだろうか。

第２問　国家間の結びつきに関する問題。現代社会と区別して地理らしさを出すことが、受験者の学習の成果を図るためのポイントになると考えられるが、７問中５問に図表を用いており、作問者の努力が伺える。ただ、地図が１枚も使われていなかったのは残念である。また、資料を用いなかった２問に関しては、「地理」ではなく「現代社会」のような問題になってしまっている。工夫をお願いしたい。

問１　衣類、小麦、鉄鉱石は日本の貿易学習では必ず扱われるので、基礎的レベルの問題である。

問２　時事的な内容を扱うという意図は理解できる。しかし、常識的なレベルであり、地理の学習成果を測る問題としては疑問。

問３　航空輸送と海上輸送の特性の違いから判別させる。集積回路を問うているのは適切。

問４　３カ国それぞれの位置や経済状況、歴史的背景等から多角的に考えさせる内容となっている。難易度は高いが、地理的な思考力が試される良問。

問５　海外在留の日本人に関する問題。長期滞在者と永住者の性質の違いを理解しているかがポイント。バンコクは、経済関係（企業活動等）から類推できる。４カ国の特徴がはっきりしている資料を用いており、妥当な内容と言える。

問６　通信機器の加入件数に関する問題。各国の経済状況を踏まえて考えれば判断が可能な内容になっている。インドを答えるものだったので難易度は標準的である。問５同様に４カ国の違いがはっきりしており、妥当な内容と言える。

問７　国家間の結び付きの単元において頻出の内容である。しかし、文章のみのため、地理の

学習成果を測る問題としては疑問。第２問では地図を用いた問題がなかったので、地図を用いて答えさせる内容にすれば、「地理」らしい問題になったと同時に大問全体のバランスも良くなったのではないだろうか。

第３問　ヨーロッパの自然環境、農業、家屋、言語、民族、文化および欧州連合（ＥＵ）に関する問題である。大問全体としてヨーロッパの多くの地域についてバランス良く取り扱われている。地図や絵画、写真、統計など各種資料を工夫して用いるようという方向性は今後も続けていただきたい。全体として標準的な難易度の問題といえる。

問１　ヨーロッパの自然環境の特徴を問う標準的かつ基本的な問題である。

問２　絵画を用いた点で意欲的であり、工夫を凝らそうという意図が感じられる。しかし、解答自体は、絵画がなくても可能なのが少々残念である。難易度は標準的である。

問３　イギリス南西部、フランス南部、オーストリア中央部の伝統的な家屋の景観の特徴を問う問題である。地理の重要な見方である、自然環境と人間生活の関わりについて問うていることと出題に当たって地図及び写真を用いていることから良問である。

問４　言語に関する問題である。単純な知識問題としても解答可能であるが、表に示されている、それぞれの言語の「はい」「いいえ」の発音の近似性をヒントにすることもでき、工夫が感じられる問題と言える。

問５　下線の対象となる事例は適切である。ドイツでは、労働者として招き入れたトルコ人が帰国せず、ドイツ人との軋轢（あつれき）が生じていることはよく知られており、トルコ語を公用語とする自治体が存在しないことは容易に類推できる。

問６　生活・文化を問う試みは理解できる。このテーマは、単なる知識の問題になりがちであるが、自然環境や社会制度との関連で出題しているところに工夫が見られる。落ち着いて内容を確認しながら文を読めば、容易だと思われる。

問７　欧州議会とＥＵの分担金に関する標準的な難易度の問題である。各国における欧州議会の議席数は人口規模に応じて配分されていることと、ＥＵの分担金が各国のＧＮＩにもとづいて決められていることが注に示されていることが重要で、これによって、問題として成立している。

第４問　資源に関する地球的課題と国際協力に関する出題である。世界のエネルギー消費、天然ガス、環境問題、水資源など様々な地球的課題を問うている。個々には改善の余地はあるが、全体としては標準的レベルの出題になっている。

問１　エネルギー消費の地域別伸び率を示し、エネルギー資源を組み合させる出題であるが、世界全体の消費実績のみで解答の判断ができる。せっかく地域別の統計を提示しているのだから、それを活用する工夫が望まれる。

問２　各国の天然ガスに関する具体的知識に関する出題。世界の統計地図を示して問うている点は評価できるが、やや難しい。また、問題が裏表２ページにわたっているが、見開き２ページになるよう改善を望む。

問３　地図を示して短文の正誤を判定する問題。ブラジルでは石炭がほとんど産出されないことが分かれば解答できる。基本的レベルの問題。

問４　この問題は、水の年間総使用量の内訳において、先進国では工業用割合が高い、稲作の

盛んな国は農業用割合が高い、などの知識を勘案して解答を進めていく。消去法で解答するものと考えられるが、②と④では農業用、工業用、家庭用の割合が全く同じなので、受験者は苦労したのではないか。そこで１人当たり国内水資源量を見て判断することになる。様々な知識を活用する良問だが、難問とも言える。

問５　国際協力に関する出題であるが、正誤の判断ポイントは分かりやすく作問されている。

第５問　地域調査に関する問題である。「地理Ａ」、「地理Ｂ」とも地域調査は重要な学習項目である。一方、センター試験では、受験者の居住地域によって有利・不利がないようにすることが求められる。つまり、一般的な地理的知識・技能を用いて、与えられた資料を読み解き、解答可能かどうかがポイントである。この問題は全体としてはよく配慮されていると思われる。

問１　日本列島の冬の典型的な気候状況を理解していれば解答可能である。標高も示されている所に細かな配慮が見られ、良問と言えよう。

問２　地図が読み取れるかどうかを問うている。難易度は高くない。必要な情報のみを示した地図は、受験者の読図レベルを測るのに適切である。教員が問題を作成する上で参考にしたい問い方である。

問３　地形図の読図問題としては典型的である。センター試験としては必要な問題。

問４　景観（写真）の読解力を問うている。読み取る内容は基本的なものであり、良問と言える。

問５　全国の割合との対比から長浜市の特色を読み取らせようという趣旨は理解する。しかし、実際には全国のデータのみで解答可能になっている点が残念である。解答に際して、図４の地形図を参照させるといった工夫があるとより良い問題になったと思われる。

問６　写真のポルトガル語版、スペイン語版という表記をヒントにして解かせようという趣旨は分かる。しかし、ブラジルであるかペルーであるかという判断は、全国の国籍別居住者割合しかない。ブラジルとペルーを判別できる長浜市の資料が提示されることが望ましい。

## ３　ま　と　め

全体を通して出題内容、難易度、分量等はおおむね適切であったと思われる。しかしながら、幾つか改善を望む点も見られる。第１に、解答不能と思える不適切な問題が見られた点である。細心の注意をお願いしたい。第２に、地図、図表等扱いである。大問によっては地図がまったく使われていないものもあり、現代社会の問題のようになってしまった。地理と現代社会では内容的に重なるところもあるからこそ、出題形式・方法に工夫が望まれる。また、図表を用いながらも解答に際して、それらを利用しなくても解けてしまう問題もあった。地図や図表の扱いは地理学習、とりわけ、地理的技能を重視する「地理Ａ」にとっては極めて重要である。是非とも御検討いただきたい。第３に割り付けの問題である。一つの小問に対して、裏表印刷される場合があったが、これは極力避けてほしい。

## 地　理　B

### 1　前　　文

小問単位で見ていくと地形分野がやや少ないように感じられるものの、大問ごとに見ると分野の偏りなく出題されている。また問題の難易度もおおむね教科書レベルで標準的であると判断できる。

出題の素材については、地図やグラフが多用されており、地理的な見方・考え方を問う出題も多くみられた。良問を作成しようとする意欲が感じられる。一方、短文選択により基礎的内容を問う出題もあり、地理的見方・考え方と地理的知識とのバランスは悪くない。しかしながら、第２問におけるように、世界の統計地図において図形表現図を多用されている点について、考慮をお願いしたい。もう少し多様な表現方法で問うてもよかったのではないだろうか。また、第１問の問１の下線部②と第４問の問１のように、内容的に重なっている出題が見られた。それぞれが優れた問であっても、多様な内容を問う観点からすると、重複はできるだけ避けるべきであろう。全体を通してのチェック機能の充実をお願いしたい。

新しい高等学校学習指導要領では、「日本史」や「世界史」のＡＢ科目においては「地理的条件」を関連付けることが目標として挙げられ、「地理」ＡＢでは「歴史的背景」を踏まえることになっている。このように分野的にクロスオーバーする中で、「地理らしい」問いどのように充実させていくのか、地歴の関連する内容をどのように問うていくのか、課題となろう。

### 2　試験問題の程度・設問数・配点・形式等

第１問　自然環境についての大問であるが、いずれも気候環境との関わりが問題にされており、ややバランスに欠ける。地図やグラフなどを利用している問題は良いが、一部に、文章だけで単純な知識を問う問題もあり、工夫を求めたい。

問１　世界の乾燥地域の分布について扱った標準的難易度の問題である。亜熱帯高圧帯の特徴や海岸砂漠の成因、季節風の吹く地域で乾燥帯ができにくいことが扱われていて、気候に関する問題としては良問といえる。

問２　４地点の月別降水量に関する問題である。ＡＢＣＤの位置から月別降水量を類推する。Ａは、熱帯収束帯の移動に伴う降水量変化から雨季を判断する。難易度はやや高い。

問３　３地点について年平均の湿度と気温を示したグラフを読み取る標準的難易度の問題である。アは寒流の影響を受けるため緯度の割に気温が低いこと、イは低緯度の内陸部なので気温が高く湿度が低いこと、ウは三つの中で最も高緯度であり内陸部にあるので年平均気温・湿度ともに低いことが理解できれば良い。

問４　砂漠地域に見られる河川の名称を選択肢から選ぶ問題である。選択肢はいずれも基本的な地形用語である。単純に語句を選ぶ問題で出題に当たって工夫は全くない。単純に語句を選ぶ問題はこの問題だけであるので許容できるものの、改善を望む。

問５　乾燥地域及びサバナ地域の地形・植生・土壌の特徴に関する標準的な問題である。基本的事項をしっかりと理解していれば答えられる良問である。

問６　乾燥パンパ、コロラド高原、サヘル、タクラマカン砂漠の自然環境と人間生活に関する問題である。ヤクはチベット高原周辺に限られることから解答は、容易である。しかし、乾燥地域として取り上げる事例として乾燥パンパが適切か疑問である。

第２問　主題図の範囲などで気になる部分もあるが、単純な知識を問う問題はなく、全ての設問で主題図、統計資料、グラフを用い、多面的に地理的事象を読み取らせようとする姿勢は評価できる。

問１　地図を用いた「地理」らしい問題である。ただ、スペースの関係からなのか、ベーリング海峡付近、南米南部、オーストラリア東部が省かれてしまっているのが気になる。

問２　産油国と輸入国との位置関係から該当する国を推定する設問である。良問といえる。

問３　②と③は余り差が見られないが、台湾で③が多いことから製造業と判断できる。やや難問である。ルーマニアが指標国として適当かどうかは疑問である。

問４　解答に当たって、輸出品の品目と輸出総額を参照する必要があり、この点はよく考えられている。タイへの輸出を問う問題は余り見ないが、難易度は標準的。

問５　アメリカと中国の分布の違いが問題を解くカギとなる。自動車をめぐる国際的動きを理解していれば解答できる。標準的難易度の問題。なお、問題が裏表２ページにわたることはできるだけ避けてほしい。

問６　解答に当たって、それぞれの分布図から分布の特徴を読み取る必要があり、地理的な技能を測るには適している。しかし、ヨーロッパ周辺が若干見にくくなっている。観光収入のようにヨーロッパ内の分布状況が判断の鍵となる場合があるので、地図作成上何らかの工夫が望まれる。

第３問　全体的に内容的にもバランス良く、良問に仕上がっている。表やグラフや地図なども適宜取り入れており、いかにも「地理」という問題である。難易度も適切である。ただ、表・グラフ・地図を使用していない三つの問いについては、同じような文章正誤選択の出題形式となってしまった。都市圏や商業施設、観光・余暇活動に関する設問であったので、スケールを変えた地図の利用や景観写真を利用するなど工夫が望まれる。

問１　都市を単体ではなく、地域におけるシステムとして捉える見方を要求している。地理学習にとって必須の見方であろう。出題されている国の選択も適切である。

問２　それぞれの文章中に挙げた国と都市は新大陸都市、西欧都市、東南アジア都市、アフリカ都市と適切であり、それぞれ特徴的であり、区別する判断材料も的確に表現されている。景観写真等との組合せといった出題も可能であろう。

問３　三大都市圏の人口に関する変化を示したグラフの読み取りであり、工夫された良問である。説明の文章も的確である。難易度は易しい。

問４　市町村単位の人口動態に関するコロプレスマップを出題している。市町村の合併等によって、統計単位地区が変化してしまい、その扱いは大変に煩雑になるが、このような地図を試験問題のために作成されたことはすばらしいことである。都心空洞化、都心回帰、ニュータウン建設等のキーワードが明確に示される時期の選択、４段階の階級区分でのモノクロ色調での表現ともに極めて適切であり、それぞれの時期における地域構造を明確に表現している。さすが大学入試センター試験と思える良問である。このような出題を更に期待し

たい。ただ、問題が裏表２ページにわたることはできるだけ避けてほしい。

問５　商業施設を商圏や立地と関連させ適切に分類している。必要な視点ではあるが、質問内容はやや常識的である。

問６　観光・余暇活動に関する出題は必要であるが、個別知識的（そのことを覚えてなくては解けない）問題や極めて常識的（学習をしていなくても解けてしまう）問題になりがちであるので細心の注意が求められる。この問題は、やや常識的と思えるが、適切である。

第４問　東南アジアの地誌に関する問題。自然環境、農牧業、宗教・言語・民族、貿易、経済と幅広い分野からバランス良く出題されている。文章のみで判断させる問題はなく、地理選択者にとってはやりがいのある問題が並んでいる。この地域は経済成長の著しい国が多く、授業でも地域の変化やその背景を学習する機会が多いと考えられるが、問３、問４のように変化から考えさせる問題が２問出題された。変化の大きい地域を扱う際には、現状の把握にとどまらないこうした出題が今後も継続されることを期待したい。

問１　モンスーンはこの地域の自然環境はもちろん農業にも大きな影響を与えているため、ほとんどの受験者が学習している。図を用いた組合せの形式になっているが、複雑な読み取りの技術は必要なく、取り組みやすい問題である。なお、第１問の問１②とこの問題の示す図は内容的に重なっている。

問２　三角州の地域的特色に注目したところは意欲的であり興味深いが、やや細かい知識が必要となる。特に③と④は判断が難しかったと推測される。④はベトナムの首都ハノイは人口規模で国内最大でないという知識に依存している。

問３　商品的性格が強い肉類と自給的性格の強いココナッツ、キャッサバの増減が年代判断のポイントとなる。また、バナナとパーム油は、学習する素材として扱う国が異なるため、やや難しい。

問４　言語・宗教・民族に関する問題。選択肢はいずれも教科書レベルである。シンプルであるが妥当な問題と思われる。

問５　ＡＳＥＡＮの貿易相手国の変化に関する問題。ＡＳＥＡＮとその周辺地域の経済発展の過程も踏まえて考える良問としたい。

問６　それぞれの国の経済規模はもちろん人口規模も踏まえて考えれば判断は可能である。知識に加えて地理的な思考力も必要とする良問としたい。

第５問　現代世界の諸課題に関する出題である。地域紛争、女性の就学・就業、人口、食料、都市問題など、様々な課題を積極的に取り上げている。この分野では、知識を問うたり、地誌的な問い方が中心になりがちである。世界の統計地図の活用などにより、世界を大観させるような出題の工夫もお願いしたい。

問１　地図を用いて、民族問題や宗教的紛争に関して出題している。基本的なレベルの問題。

問２　女性労働力率と女性初等教育就学率との相関グラフを用いた良問である。女性初等教育就学率は一般に、先進国ほど高くなること、イスラム教徒の多い国では女性労働力率が低いことなどから解答できる。女性労働力率は、先進国ほど高くなると考えられがちであるが、必ずしもそうではない。

問３　都市における公衆衛生普及率は、普段目にしない指標で、受験者は戸惑ったのではない

だろうか。しかしながらこの指標から、スラムが想起されるべきであり、地理的な見方を評価するには、このようなデータを出題することも重要であると考える。人口密度や平均寿命など総合的に判断できるので、良問と言える。

問４　食料に関する先進国の課題、西アジアの石油産出国の課題、発展途上国の課題等が整理されていれば解答は可能であろう。標準的難易度の問題である。

問５　ロンドンの都市問題に関する問題。基本的な出題である。④の誤文の作り方が、第３問の問５と似ているのが気になる点である。

第６問　地域調査に関する問題である。「地理Ａ」、「地理Ｂ」とも地域調査は重要な学習項目である。一方、受験者の居住地域によって有利・不利がないようにすることが求められる。つまり、一般的な地理的知識・技能で解答可能かがポイントである。この問題は全体としてはよく配慮されている。

問１　日本列島の冬の典型的な気候状況を理解していれば解答可能である。標高も示されている所に細かな配慮が見られ、良問と言えよう。

問２　図が読み取れるかどうかを示している。難易度は高くない。必要な情報のみを示した地図は受験者の読図のレベルを測るには適切である。教員が問題を作成する上で参考にしたい問い方である。

問３　地形図の読図問題としては典型的である。センター試験としては必要な問題。

問４　景観（写真）の読解力を問うている。読み取ることのできる内容は基本的なものであり、良問と言える。

問５　全国の割合との対比から長浜市の特色を読み取らせようという趣旨は理解する。しかし、実際には全国のデータのみでも解答可能になっている点が残念である。解答に際して、図４の地形図を参照させるといった工夫があるとより良い問題になったと思われる。

問６　写真のポルトガル語版、スペイン語版という表記をヒントにして解かせようという趣旨は分かる。しかし、ブラジルであるかペルーであるかという判断は、全国の国籍別居住者割合しかない。ブラジルとペルーを判別できる長浜市の資料が提示されることが望ましい。

## ３　ま　と　め

大学入試センター試験では、「地理Ｂ」で学習する広範な領域を偏りなく扱うことが要求されている。今回も比較的バランス良く出題されている。難易度も適切である。地図、図表、グラフ、写真等が多用されている。これらのことは評価できる。また、以前に指摘した余りに常識的な問題が出題されているという点については一定の改善が見られる。

一方、今後も改善を要する点として次の３点を挙げる。第１は地図・図表・資料等の扱いについてである。毎回指摘しているが、一部に改善の余地がある問題も見られる。第２は、全体の構成である。個々の問題としては適切であったとしても、内容的に重なりがないか、質問形式の重なりが許容範囲かなど細心の注意を払ってほしい。第３に割り付けの問題である。一つの問いで裏表２ページにわたる出題はできるだけ避けてほしい。大学入試センター試験は、学習の模範にもなっていることから、一層の質的向上を望みたい。

## ②　全国地理教育研究会

（代表者　茂　泉　吉　則　　会員数　約600人）
ＴＥＬ　0422-46-3311

### 1　前　　文

全国地理教育研究会は、主に全国の高等学校で実際に地理を担当している教師を中心として構成された研究組織で、会員は年一回の研究大会と年二回の会報の発行を軸に研鑽（けんさん）を重ねている。それだけに、大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）の問題には強い関心を持っている。毎年、センター試験の実施後には検討会を設け、様々な角度から意見交換を行っている。今回も、その場で出された声をまとめ、本会の意見・評価としたい。

### 2　試験問題の程度・設問数・形式等

⑴　試験問題の程度について

今年度のセンター試験追・再試験は、「地理Ａ」は、難化した本試験に対してほぼ標準の難易度となっており、昨年度と同様に学習の成果を問う適正なレベルとなったと考えられる。一方で「地理Ｂ」は、本試験とともに昨年度と比較してやや難化している印象である。小問単位で見ると、おおむね「高等学校までの地理の学習の成果を適切に問うている」と言えるが、その中で、旧課程的な知識に依拠した設問が「地理Ａ」、「地理Ｂ」ともに例年以上に見られる印象である。その上、初見の図表・グラフの読み取りに時間を要すること、問い方が変則的な設問が見られること、組合せの小問が見られることなどの要素が加わって、歴史や公民科目と比べ高得点が取りにくい状況は例年通りである。

⑵　設問数や形式について

大問数は「地理Ａ」５問、「地理Ｂ」６問で昨年度と変わらなかったが、小問数は本試験と同様に「地理Ａ」が33問、「地理Ｂ」が35問となり、「地理Ａ」のみ２小問減となった。このことは、時間を掛けて考察する必要がある小問が少なくないことから歓迎したい。「地理Ａ」に引き続き「地理の基礎的事項」が残ったが、今年度も基礎基本の小問が多かった。

問題の形式については、①組合せの設問が引き続き出題されていることに加え、②「地理Ａ」、「地理Ｂ」ともに図表が多用されていること、また、「地理Ａ」では表が多く、「地理Ｂ」では図が多く出題されたこと、などの指摘があった。

①については「地理Ａ」、「地理Ｂ」ともに９問が６択の「組合せ」の形式である。これは昨年度と比べるとほぼ同数である。ただし、この他に「地理Ａ」で「２本の下線部分の正誤をそれぞれ判別するなど４択となる「組合せ」の小問が２問、「地理Ｂ」で３問見られた。②については、「地理Ａ」（地図4、地形図1、図4、表10、グラフ2、写真４、絵・イラスト１）、「地理Ｂ」（地図4、地形図1、図12、表7、グラフ3、写真２）で、例年通り図表の読み取りを問う設問が多く見られた。これは、地理という科目の特性でもあり基本的に歓迎したい。ただし、情報を盛り込みすぎたり、作りすぎて読み取りにくいなどの課題がないように精査を願いたい。

## ３　追・再試験「地理Ａ」について

「地理Ａ」とは何か、「地理Ａ」らしい設問とは何かをかなり的確に捉えて作問されている小問と、「地理Ａ」の学習レベルの理解が不足している小問が混在している。現状、２単位の授業で扱える内容はかなり限られている。義務教育段階での社会科の学習内容も知識レベルでは極めて限られたものとなっている。その中で、今回も、出題範囲としては適切でありながらも、問える範囲を踏み越えた設問が複数見られた。本会で出た指摘を参考にしていただければと思う。今年度は、生活・文化色の強い「地理Ａ」らしい大問があった点は評価する。しかし、相変わらず「地理Ｂ」との相違が明確でない設問が多く見られたことも指摘しておきたい。なお、問題の程度は、例年とほぼ同程度で、難度の高い本試験より適正ではないかという印象である。

**第１問　「地理の基礎的事項」**　ホモロサイン図法の世界全図から小問を５問、その他の雑題が３問の構成。「地理Ａ」の学習範囲というより基本的で常識的な内容が出題されている。本試験と比較すると基礎的事項の難易の程度はやや難となっていると思われる。

問１は東京の対蹠点の位置。基本。問２はホモロサイン図法の特徴。ホモロサイン図法の学習は必ずしもなされていないので未習の生徒には難問。問３は４本の線上の比高が最小のもの。これは主要な造山帯の学習の応用で解答可能。基礎的事項というより標準。面白い問い方で参考になる。問４はヨーロッパの高度帯別面積の割合。これは基礎的知識と言える。問５は４地点の気候の特徴。これも基礎的事項である。問６は地形用語の基礎。問７は３地点の運河景観。とても基礎的事項とは言えない。標準。問８は領土に関する用語の基礎的事項。これは平易である。

**第２問　「国境を越えた結びつき」**「地理Ａ」の学習範囲の小問もあるが、はるかに許容範囲を逸脱した小問も複数見られる。本試験でも「おおむね既習の学習内容を応用すれば問えるという判断が誤っている」としか思えない小問があったが、追・再試験にも同様の設問が見られ、今後の大きな課題と考える。得点率がかなり低くなる大問だろう。

問１　主要一次産品について、日本の輸入額上位３位までの国・地域を特定する小問。流線図等で問う形式を表にした小問。これは学習範囲で標準の難易度である。

問２　日本の貿易に関する近年の状況についての正誤文選。貿易総額でアメリカ合衆国と中国の順位を問うのは時事的でやや細かい知識。「地理Ｂ」レベルの知識がないと判断が難しい。やや難とする。

問３　貿易港ごとの輸入額上位４品目。集積回路を聞いているので平易。ただし、他の品目を聞いたら難問となりセンター試験の問いとしては疑問。

問４　イギリス・インド・日本の３か国間の人の移動。この形式の問い方はここ数年頻出であるが、対象国によっては流動数を実際に学習する機会がない以上、他にも判断材料が必要である。この小問が難問であるという認識を作問の先生方に認識していただかないと、次々に国を変えた新たな難問が登場することになるだろう。我々教師側も、イギリスとインド間の人の移動では、インドからイギリスに行く人の方が多いと考えてしまった。

問５　海外諸都市の日本人永住者と長期滞在者。これもやや難。都市レベルで問うとそれだけでハードルが上がる。タイのバンコクは日本企業の進出が多く、長期滞在者が多いことに気

付けるかどうか。このレベルを最難問として調整いただきたい。

問６　４か国の携帯電話、固定電話、固定ブロードバンドの人口100人当たり加入契約数。アメリカ合衆国を除くと、残る３か国の仕分けができるかどうかが鍵。主要国とは言えない分、やや難とする。

問７　国際機構が設立された当初の目的について述べた文の正誤文選。各文の内容は難しい。「地理Ａ」の学習で②と③判別することは難ではなかろうか。

**第３問　「ヨーロッパの自然環境と生活・文化」**「地理Ａ」を意識した絵画や写真、言語を素材とする生活・文化の小問が並び好感がもてる大問となっている。「地理Ａ」において地域を出題する際の例示となる。

問１　４地域の自然環境。基本的な内容で誤文の質も高い。標準の難易度である。

問２　絵画と食文化を説明した文を強引に結び付けた印象は拭えないが、「地理Ａ」的な小問の設定として評価したい。学習範囲であり、やや易とする。

問３　地図中の３地域の伝統的な家屋景観。「地理Ａ」らしい小問も、３地点の位置が微妙でありやや難とする。家屋の素材の学習でＦの「草を屋根材とする」という説明はマイナーである。

問４　３か国の主要言語の説明の組合せ。面白い内容であるが、単なる民族と主要国家の知識で解答する小問になっている。やや易。もう一工夫できそうな印象。

問５　ヨーロッパの民族と文化についての文章の下線部の正誤選択。これも誤文も含めてよく練れた文章となっている。許容の内容で標準。

問６　ヨーロッパの生活・文化について述べた文の正誤文選。これもよく作られた肢文であるが、常識で解くことからやや難だろう。

問７　欧州議会における議席数と国民１人当たり分担額からＥＵ加盟３か国を特定する小問。３か国の大まかな人口と１人当たりＧＮＩの知識から判断することになるので「地理Ｂ」の小問である。設問そのものは評価できる。「地理Ａ」ではやや難である。

**第４問　「資源をめぐる地球的課題と国際協力」**「地理Ａ」では定番の出題範囲なので、個性のある作問を行うのにも限度がある。全体として見ると、テーマを資源に限定したことで、「地理Ａ」としてはやや細かく知識を問うており、「地理Ｂ」的で難易度が高くなっている。

問１　世界諸地域の化石燃料ごとの消費の年平均伸び率と1980年と2007年の消費実績。ほぼ消費実績から解答は可能も地理Ｂの小問だろう。しばしの考察を要し、やや難とする。この小問を４点の配点とするのは重いのではなかろうか。

問２　天然ガスの産出量と輸入量の多い国を示した図形表現図の読み取り。「日本は輸送が難しい天然ガスは近隣の東南アジアから輸入している」という知識で解答できる。標準のレベルであるが、やはり「地理Ｂ」の問い。

問３　４地点における資源開発と環境への影響についての文の正誤文選。これは適正な誤文である。これよりひねった誤りは受験者を大いに混乱させる。標準。

問４　４か国の淡水資源。１人当たり国内水資源量、年間総使用量、使用対象の内訳から国を特定する。「国内水資源量は国土面積を考慮する」ことと「日本は農業用水の割合が高い」と学習していれば正解にたどり着けるが「地理Ａ」では難問だろう。「地理Ｂ」の小問の作

りであると言わざるを得ない。

問５　水資源の開発や河川利用に関する国際協力について述べた肢文の正誤選択。未だ整備が十分でないメコン開発で誤っている。これは標準。消去法で解答は可能か。

**第５問　「滋賀県長浜市の地域調査」**　写真や地図に図表を多用して、よい出来映えの大問となっている。本試験と比較すると取り組みやすく、「地理Ａ」学習者だから解答が困難となるような設問もみられない。レイアウトが押せ押せで見づらくなっている。

問１　ほぼ同緯度の４都市の気候の比較。定番の小問。12月の平均気温と降水量のみのデータ。観測地点の標高もヒントになっている。標準。

問２　長浜市周辺の鉄道の変遷を示す図を参考に各年代の状況を述べた文章中の下線の正誤を問う小問。丁寧に読めば平易であるが、図も注意して読む必要があり、難易度は標準である。

問３　新旧地形図を比較しての読み取り。これも定番。地形図の読み取りでは、このレベルが現行の高等学校学習指導要領から理想に近い。

問４　長浜市の中心市街地の景観写真と説明文の組合せ。写真と説明文がよくマッチしている。良問である。標準。

問５　長浜市の製造業。全国の業種別出荷額割合との比較で判断が可能になる。標準。

問６　長浜市の外国人居住者の内訳。これも全国との比較で解答可能である。標準。

## ４　「地理Ｂ」について（「地理Ａ」との共通問題を除く。）

今年度の追・再試験「地理Ｂ」は、昨年度と比較しても受験者には容易に解答できない小問が多く見られ、解答に時間が掛かったと思われる。ここ数年、大問のテーマに変化がないことで、受験者は試験への準備が容易になっているが、そのせいもあって、より細かい知識を問うようになっている。国・地域や都市を扱う場合などには、細心の注意を払うようにお願いしたい。

**第１問　「世界の自然環境」**　乾燥地域の自然をテーマにした小問が並んでいる。文選が３問、用語選択が１問で図表が少ない印象である。学習の成果が生きる大問という印象ではある。

問１　世界の乾燥地域の分布について述べた文章の下線部の正誤を問う小問。大気の大循環の理解と乾燥地域の成因が問われている。標準。

問２　地図中４地点の月別降水量の変化。北半球と南半球の雨季月と乾季月の理解。これも標準の難易度である。

問３　ほぼ乾燥地域に重なる３地点の年平均気温と年平均湿度の相関。緯度では判別できない地点が指示されている。勘違いしやすく、やや難か。

問４　乾燥地域に見られる通常水流のない河川の用語選択。これは平易。

問５　乾燥地域の地形・植生・土壌に関する正誤文選。標準。

問６　乾燥地域の自然環境と人々の暮らしについての正誤文選。パンパにヤクの放牧で誤るというところでやや易問となっている。

**第２問　「世界の資源や産業」**　創意工夫に富んだ力作の大問。取り組みやすそうで、案外幅広い知識を要し、受験者にはやや難易度の高い設問が並んでいる。本試験に出題したかった評価できる大問である。

問１　装飾用ダイヤモンドの原石の産出量と輸出量、加工品の輸出量を示す３枚の図形表現図の組合せを問う小問。長い設問文がヒントになっている。いつか出題されると予想していた設問。面白い内容で良問である。やや難か。

問２　４か国の主な産油国からの原油輸入量を示す表から韓国の相手国を答える設問。
近隣の国・地域からの輸入と考えるのか。標準。

問３　４か国の産業別就業人口の割合から製造業の凡例を選択する設問。各国の個性から正解にたどり着ける。標準。

問４　主なＡＳＥＡＮ諸国からタイへの輸出品と輸出総額を示す表からフィリピンのものを選択する設問。ＡＳＥＡＮ諸国同士の貿易品が出題されるのは珍しいが、日本の各国からの輸入品も参考にできるので解答可能である。やや難。

問５　日本の自動車製造会社の海外における完成車組立工場の国・地域別分布の経年変化を問う設問。日米貿易摩擦や中国への本格進出の時期等から考察できるが受験者にはやや難だろう。良問である。

問６　観光収入、特許権・ライセンス使用料収入、留学生受入数について世界に占める割合を国・地域別に示した図形表現図から該当の指標を選択する設問。注意深く見ないと判別は難しく、やや難とする。問１と図の作りが似ており、この点は工夫を求めたい。

**第３問　「都市と消費・観光・余暇活動」**　比較的オーソドックスな小問で構成されている。よく練れた小問もあり、学習効果が問える設問が多くなっている。

問１　３か国の、総人口に占める市域人口の割合の上位５都市。３か国とも特徴があり学習範囲だろう。標準とする。

問２　世界の都市圏についての正誤文選。誤文が苦しい。正文も確たる知識ではないので正誤の確信がもてない小問となる。やや易なのだが受験者には不安が残る。

問３　日本の三大都市圏の転入超過数の推移を示した図を読み取った文章の下線部の正誤を問う設問。標準。学習の成果を問う小問となっている。

問４　東京圏の市区町村別人口増加率の経年変化を示す階級区分図を年代別に並べる小問。問３とセットの設問であり、これも学習の成果が問える良問である。

問５　日本の大都市圏における商業施設に関する正誤文選。標準。

問６　世界の都市の観光・余暇活動に関する正誤文選。都市レベルの肢文の内容は詳細に過ぎる部分もある。④の誤文はありがちで、受験者は迷うのではないか。標準。

**第４問　「東南アジアの地誌」**　基本的な学習がなされていても容易に解答できない難問が含まれ息が抜けない構成となっている。国単位では学習できる余裕がないなど、高等学校段階の地誌学習の現状について理解に欠けている印象で、全体として、得点率は相当低くなるだろう。

問１　夏季と冬季の風向と降水量。降水量については第１問の問２ともリンクしている。定番の知識でありやや易である。

問２　三角州が形成される４地域の説明文の正誤文選。相当細かい知識である。どの地域であれ、ここまでの学習は行わない。難問ではないだろうか。

問３　東南アジアで生産される農畜産物の経年変化。問い方が変わっているので理解に時間はかかるが、パーム油が近年の重要な輸出品となっていることが知識理解できていれば難しく

はない。標準とする。

問４　地図中の４か国の経済や文化について述べた文の正誤文選。これもかなり正確な知識を必要とする。また、正文とされる②の真偽が分からない。やや難だろう。

問５　ＡＳＥＡＮ加盟国の輸出入額の総計に占める主要な国・地域別の割合の変化から年と相手国・地域をそれぞれ２択で問う小問。問３と同様の問い方でやや違和感がある。中国との関係とＡＳＥＡＮ諸国相互の結び付きの拡大から解答は可能だろう。標準のレベルとする。

問６　ＡＳＥＡＮ加盟国のＧＤＰと１人当たりＧＤＰの相関からマレーシアのものを選択する小問。これは学習範囲である。標準。

**第５問　「現代世界の諸課題」**　諸課題が各部門満遍なく問われた印象である。出題の対象となる国・地域や都市の選択を誤ると、一気に難問になることを改めて銘記しておきたい。諸課題の小問には、特にこの傾向が顕著になっているので重ねて注意を喚起したい。

問１　地図中の四つの地域に見られる地域紛争の正誤文選。キプロスを示すＡ地域が誤文となっておりやや細かい知識か。標準。

問２　４か国の女性初等教育就学率と女性労働力率の相関。マリとラオスはやりすぎの印象。サウジアラビアに該当するものを問うているので解答は可能か。難易度は標準も、今後も国の選択に関しての懸念は残る。

問３　諸地域の低・中所得国について、人口密度、都市における公衆衛生普及率、平均寿命を示した表から地域を特定する小問。南アジアとサハラ以南のアフリカが特定できるので解答は可能である。標準。

問４　４か国の食料生産と栄養供給について述べた文のうちからコートジボワールのものを選択する小問。特徴のある国々であり学習範囲である。標準とする。

問５　ロンドンの都市問題について述べた文章中の下線部の正誤文選。これも学習する内容である。標準。

**第６問　「滋賀県長浜市の地域調査」**「地理Ａ」との共通問。コメントは「地理Ａ」第５問参照。「地理Ｂ」では標準からやや易のレベルで適正な難易度となった。

## ５　要　　約

追・再試験の「地理Ａ」、「地理Ｂ」を設問単位で検証した結果、本年度は昨年度に引き続き、高等学校までの学習内容を逸脱した難問・奇問に当たる設問は少なく、また判断に迷う表現も余り見られなかった。

評価できる点としては、地域調査の大問が良問となっていること、工夫された図表やテーマ設定が複数見られること、である。良問と評価した小問はそれぞれ評判が高かった。

一方で、やや知識理解に偏った旧課程的な設問は少なからず見られることは例年通りの課題である。知識を学ぶ学習がこれまでより一層減っている現状では、知識を前提とする設問にはより深い配慮をお願いしたい。「地理Ｂ」の東南アジアの地誌問題は、端的な例である。日本のことなら分かっている、という考えも捨てていただきたい。また、先生方相互のチェック機能を十分に働かせて、学習範囲の確認をしっかり行ってほしいと思う。作問される先生方の想像以上に、受験者の常識レベルは薄く、授業内容は言葉としての理解に留まってしまっていることを、我々現場の教師は

日々感じている。

本会は例年、⑴基礎・基本としての必須な知識を整理し、それを前提に作問し、それ以上のレベルの知識には必ず情報を与えること、⑵授業で扱うことのない専門性の高い内容や未だ研究段階で諸説あるような内容を安易に出題しないこと、⑶専門性の高い作問者の常識と受験生のそれとの落差に留意すること、⑷解答に掛かる時間に十分に配慮すること、を重点としてお願いしている。本会は学習の成果を踏まえた設問であれば難問でも評価する。今年度も作問者の御苦労は感じ取れた。次年度以降も我々の手本となる問題の作成が行われることを大いに期待して講評を終わる。